

年間学習指導計画作成資料（案） 2 年

教材	配当 時数	指導 事項	重点目標	学習内容
一 さあ始めよう 単元目標:これまでに学習した書写技能を確かめる。				
楷書・漢字と仮名・行書	1	イ	漢字の整え方, 漢字と仮名の交え方, 行書の基礎的な書き方について確認する。	楷書の整え方・漢字と仮名の交え方・ 行書の基礎的な特徴
二 行書への理解を深めよう 単元目標:行書の特徴への理解を深めて書く。				
①行書の書き方を確かめよう 1. 行書の基礎的な特徴 2. 点画の省略 3. 筆順の変化	6	ア	行書の特徴を基礎的な書き方について理解を深める。	1. 曲線化・筆脈の連続・直接連続・ 形の変化・方向の変化→毛筆「太陽」 2. 省略 →毛筆「温和」 3. 筆順の違い・速さの違い →毛筆「紅花」
②学習を生かそう	1		行書の基礎的な学習内容に対する 理解をさらに深め, 学習と生活に生 かす。	学習した技能の確認と応用・活用
三 行書と仮名を交えて書こう 単元目標:仮名の交え方を理解して書く。				
①行書に調和する仮名の 書き方	2	ア	行書に調和する仮名の特徴を整理 し, その書き方を理解する。	行書に調和する仮名の特徴 →毛筆 平仮名五十音
②行書と仮名を調和させ て書こう	2		行書と仮名の調和についての理解 を深める。	行書と仮名の調和 →毛筆「風の音を聞く」
③学習を生かそう	2		行書と仮名の調和についての理解 をさらに深め, 学習と生活に生か す。	学習した技能の確認と応用・活用 〔便箋・封筒〕
四 生活の中で書体を使い分けよう 単元目標:書く場面に応じて楷書と行書を使い分ける。				
①場面や目的にふさわし い書体で書こう	2	イ	場面や目的に応じて適切に書体 を使い分けて書く意識を持つ。	場面や目的にふさわしい書体の選択 〔はがき・願書〕
②学習を生かそう	2		場面や目的に応じて適切に書体 を使い分けて書く意識を徹底させ, 学 習と生活に生かす。	学習した技能の確認と応用・活用 〔聞き取りメモ・記録ノート〕
●書き初め				
「燃ゆる思い」(行書) 「大望を抱く」(楷書)	2	アイ	「書き初め」という伝統的な活動につ いて理解を深めるとともに, これまでに学 習した知識・技能を生かして書く。	学習した技能の確認と応用・活用

年間学習指導計画作成資料（案） 3 年

教材	配当 時数	指導 事項	重点目標	学習内容
五 文字の使い方を工夫しよう 身のまわりの文字 単元目標:身のまわりの文字の工夫やその効果について考え文字を使い分ける。				
①文字の使い方の工夫を見つけよう	2	ア	身の回りの文字の使われ方に関心を持ち, その使い方の工夫や効果について理解する。	文字の種類・使い分け・工夫の効果・ねらい
②本の帯をつくろう	3		文字の使い方の工夫や効果について理解を深め, 学習と生活に生かす。	文字の使い方の工夫 [本の帯]
六 学習のまとめ			単元目標:これまでの学習を生かして書く。	
感謝の気持ちを伝えよう	3	ア	これまでに学習した知識・技能を, 場面に応じて適切に運用する。	これまでに学習した技能の確認と応用・活用 [感謝状]
●書き初め				
「春遠からじ」(行書) 「江山景物新」(楷書)	2	ア	「書き初め」という伝統的な活動について理解を深めるとともに, これまでに学習した知識・技能を生かして書く。	学習した技能の確認と応用・活用

関心・意欲・態度の評価基準	言語についての技能の評価基準
これまでに学習してきた書写の知識と技能を確かめようとしている。	これまでに学習してきた知識と技能がどのように生かされているか、「はがき」や「ノート」の例示から見つけだしている。
・行書の基礎的な特徴(p.4 a,b,c)について確かめようとしている。 ・行書の2つの特徴(点画の省略・筆順の変化)について、文字例を参考にしながら書いて、確かめようとしている。	・行書の基礎的な特徴(曲線化、筆脈の連続・直接連続、形の変化・方向の変化)について確かめながら書いている。 ・行書の2つの特徴について、それぞれが用いられる部分を確認して、その特徴を生かして書いている。 d. 点画の省略 e. 筆順の変化
行書の書き方のあらましについての理解を生かそうとしている。	行書の特徴(p.7 a～e)を確認して、その方法を生かして書いている。
行書に調和する仮名の書き方があることを理解しようとしている。	行書の特徴とそれに調和する仮名の特徴との共通性を理解し、それを生かして書いている。
・行書と仮名を交えて書く方法を理解しようとしている。 ・文字を速く書くためには、文字から文字へのつながりが大切であることを理解しようとしている。	・行書と、行書に調和する仮名を交えて書いている。 ・文字から文字へのつながりを大切にして速く書いている。
・行書と仮名の交え方のあらましについての理解を生かそうとしている。 ・便せんと封筒の書き方を理解しようとしている。	・漢字と仮名の交え方のあらまし(①②)を確認して、その方法を生かして書いている。 ・便せんと封筒の書き方を理解して書いている。
生活の中には、楷書で書くのがふさわしい場面、行書で書くのがふさわしい場面がそれぞれあることを理解しようとしている。	・楷書で書くのがふさわしい場面、行書で書くのがふさわしい場面を具体的に挙げている。 ・場面に合わせて書体を選択して書いている。
書体の使い分け方のあらましについての理解を生かそうとしている。	書体の使い分け方のあらましを確認して、その方法を生かして書いている。
「書き初め」を書く意義と、これまでに学習したことを生かして書く意義とを理解しようとしている。	これまでに学習した知識・技能を用いて、「書き初め」にふさわしい活用の仕方を意識して書いている。

関心・意欲・態度の評価基準	言語についての技能の評価基準
身のまわりの文字に関心をもっている。	身のまわりの文字を見て、文字の種類・使い分け・工夫の効果・ねらいを見つけている。
相手や目的に応じて文字を工夫して書くことに関心をもっている。	文字の種類・使い分け・工夫の効果・ねらいをはっきりさせて、書いている。
これまでに学習した知識・技能を、場面に応じて適切に活用しようとしている。	楷書と行書の特徴とその使い分け、用紙・筆記用具、文字の大きさ、配置など、適切に判断して書いている。
「書き初め」を書く意義と、これまでに学習したことを生かして書く意義とを理解しようとしている。	これまでに学習した知識・技能を用いて、「書き初め」にふさわしい活用の仕方を意識して書いている。

授業時数の年間配当例

3 期 制	月	週	2 年			3 年			2 期 制
1 学 期	4	3	13			10			前期 （18 週）
	5	3	13			12			
	6	4	16			13			
	7	2	10			7			
	小計	13 週	52	国語 書写	44 8	41	国語 書写	37 4	
2 学 期	9	4	15			12			後期 （17 週）
	10	1	4			3			
	10	3	11			9			
	11	4	16			12			
	12	2	9			7			
	小計	14 週	55	国語 書写	47 8	43	国語 書写	39 4	
3 学 期	1	3	12			8			
	2	3	12			8			
	3	3	9			5			
	小計	9 週	33	国語 書写	29 4	21	国語 書写	19 2	
合計		35 週	140	国語 書写	120 20	105	国語 書写	95 10	